

ERPだけではS2Pに必要な機能が不足する 6つの理由

従来のERPでS2P (調達から支払い)を処理すると、コストがかかる可能性を紹介します。



1. ERPのS2P機能は良くて「妥当」なレベル

- ERPシステムは直接材の支出を管理しますが、複雑な間接材・臨時対応・サービスの購買に対応することができません。
- 包括的な支出管理を行うには、アドオンや拡張機能が必要です。
- ワークフローが連携・統合されていないと、効率性の低下やコスト削減機会の損失につながり、情報に基づく意思決定も行えません。

2. ERPプロジェクトでは、具体的な成果を短期間で出せない

- ERPの導入には3年から4年かかる場合があり、測定できる成果がなかなか得られません。
- 基本機能の実現に、数百万ドルと膨大なリソースが必要です。
- 俊敏性に限界があり、ニーズの進化に対応できず、コスト削減や効率化が進みません。



3. ERPはユーザーに優しくない

- 複雑なインターフェイスがユーザーに敬遠され、システム外の購買が発生します。
- 定着率が低いと、マーベリック支出やポリシー違反を招きます。
- スーパーユーザーへの依存が、定着と効率化の妨げになります。

4. ERPでのS2P変革では、ITコストの最適化による利益拡大ができない

- レガシーERPには、必要なカスタマイズと継続的なメンテナンスでコストが発生しIT予算を消耗させます。
- 複数のERPシステムは、サイロ化、データの不統一、連携の課題につながることが多いです。
- システム対応にIT部門が手を取られると、より重要な戦略的優先事項にリソースを割くことができなくなります。



5. ERPシステムのAI機能が限定的で、業務効率と利益の妨げになる

- ERPのAIは、調達・購買に特化したデータが不足しているため、正確に推奨事項をカスタマイズすることができません。
- データがサイロ化している場合は、実用的なインサイトが得られず、情報に基づく意思決定を効果的に行えません。
- 柔軟性に乏しいエコシステムでは、AIの適応と統合が進まず、リアルタイムのインサイトも制限されます。

6. ERPは、現代の企業に限定的なイノベーションしか提供しない

- 数十年前のコードは柔軟性が低く、最新のテクノロジーやワークフローへの統合の妨げになります。
- モノリシックなシステム構造が足かせとなり、市場の変化や需要に迅速に対応できません。
- 分断されたモジュール式ソリューションはギャップを生み出し、統合とリアルタイムの意思決定を妨げます。



「ERPを実装した場合と、S2Pソリューションを展開した場合で、得られるようになる利益を比較しました。その差は非常に大きく、80%にもなりました。それがS2Pソリューションで得られた価値だったのです」

- 元SVP兼最高購買責任者



S2Pエクスペリエンスを高めるソリューション

最高のS2Pプラットフォームがあれば、利益を大幅に高め、ROIを短期間で実現し、組織の戦略的イノベーションが可能になります。これらの課題がどのように解決できるかをご覧ください。

今すぐダウンロード